

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

倉内紀子

倉知雅子

佐藤睦子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

長谷川賢一

春原則子

深浦順一

藤原百合

水田秀子

矢守麻奈

春は光から来ると言いますが、陽の光が明るさを増してくる候となりました。

今号には、総説として、熊倉勇美氏の「発話障害の評価と訓練——言語聴覚士に何ができるか、何をすべきか——」が掲載されています。発話障害は、問題を行動面と生理学的側面からとらえ、その発生メカニズムを検討し各問題に対応した訓練を考案することが求められます。臨床および研究の業績を積まれた熊倉氏の総説は臨床的示唆に富んでいますので、ご一読ください。

原著論文は、嚥下障害に関する2編で、嚥下障害者の舌骨・喉頭ピーク速度と嚥下障害重症度との関連性を検討した中尾雄太氏の論文と、早期経口摂取の予後に関与する因子を検討した鈴木智浩氏の論文です。いずれも嚥下機能の評価および訓練を進めるうえで重要なテーマを取り上げて検討し、貴重な結果を得た興味深い研究です。

今号は、調査報告と短報において、災害リハビリテーション、会話パートナー、へき地の遠隔言語療法について報告がなされています。これらは、言語聴覚障害のある人の地域生活を支援するうえで重要な課題であり、言語聴覚臨床のスコープの広さをあらわしています。近年、地域リハビリテーションが重要な分野のひとつとなってきましたが、地域リハビリテーションの概念は、障害がある人もない人も、基本的人権を享有し、自分の可能性を最大限に発展させ、地域社会で自分らしい生活を営むことができるよう支援することにあると言えます。言語聴覚障害のある人へのこのような支援を具体化し、そのエビデンスを客観的に示す研究が増えることを期待したいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第15巻 第1号) 2018年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会 (会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2018, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院 (代表：金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341 (FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (FAX 03-3817-8044)